

群馬県におけるクビアカツヤカミキリの被害状況

予算区分：県 単	研究期間：令和3年度（単年）	担 当：企画・自然環境係 山田 勝也
----------	----------------	--------------------

I はじめに

クビアカツヤカミキリはサクラやウメ等の樹木内部を食害し、衰弱・枯死等の被害を及ぼす特定外来生物である。国内における被害は、2012年に愛知県で初めて確認されて以降、12都府県に拡大しており、特に群馬県及び周辺県において発生している被害は、他の被害地域と比べて範囲が広く、拡大も速いことが指摘されている。

今回、県が実施した5ヶ年分（2017年～2021年）の被害状況調査結果を整理したので、本県における被害状況について報告する。

II 方 法

1 解析データ

クビアカツヤカミキリによる被害の本数や位置情報等のデータについては、自然環境課から提供された調査結果を利用した。調査の概要は次のとおり。

- (1) 調査方法：現地調査、聞き取り等により県及び市町村が把握した被害木（フラスを排出している木）の本数及び位置情報等の被害状況を集約
- (2) 調査期間：2017年から2021年の4月1日から8月31日
- (3) 対象木：サクラ、ウメ、モモ、スモモ、プルーン、おうとう、アンズ

2 解析方法

被害本数及び地点、東西及び南北方向の被害の発生頻度の変化の解析には、R（version4.1.2）を用いた。また、被害範囲の解析には、QGIS（version3.16.4）を使用した。

被害地点は、被害の傾向を解析するため、主に対象木が植栽されている以下の6地点に区分した。

- (1) 学校：幼稚園、小中学校、高等学校、大学等
- (2) 公園：都市公園（緑地や広場を含む）
- (3) 果樹園：営農地
- (4) 並木：街路樹、サクラ並木等
- (5) 公共施設：上記区分の地点を除く、公有地
- (6) 民有地：上記区分の地点を除く、民有地（社寺、民間企業、個人宅等）

III 結果及び考察

1 被害本数及び地点、樹種

被害本数は5年間で約10倍に増加した（図1）。

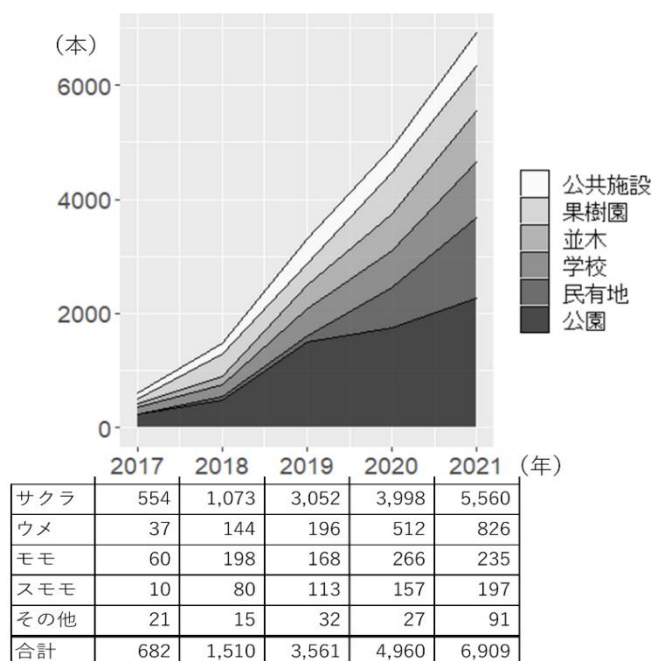


図1 被害本数、地点及び樹種の推移

被害地点ごとの被害本数の内訳（2021年）は、公園が最も多く、次いで民有地、学校、並木、果樹園、公共施設となっている。このうち公園はすべての年において最も被害本数が多いことが示された。また、民有地は2019年以前までは最も被害本数が少なく、2020年以降大幅に増加していたことが確認された。民有地の被害が増加した理由として、各種広報や2019年から開始された市民を対象とした駆除の報奨制度等による認知度の向上や被害の顕在化により報告が増えたことが一因と考えられた。

被害樹種は、すべての年においてサクラが最も多い。これは、対象木の中でもサクラの植栽本数が最も多い（全県に植栽されている対象木約19万本中およそ48%がサクラ、自然環境課2021）ことが一因であると考えられた。

2 被害範囲

被害範囲は、2017年当初の東毛地域6市町から徐々に県央部へと西進し、2021年には12市町まで拡大した（図2）。被害範囲の最外郭は、2019年以降、年間約5km拡大していることが確認された。

また、侵入経路は不明だが2020年以降には高崎市で飛び地の被害が発生した。

3 被害の発生頻度

2017年の被害範囲においては、2021年も発生頻度が高まりながら、継続して被害が発生していた（図2）。2021年について、発生頻度が高い範囲は当初から被害が確認されている東毛地域に集中していた。

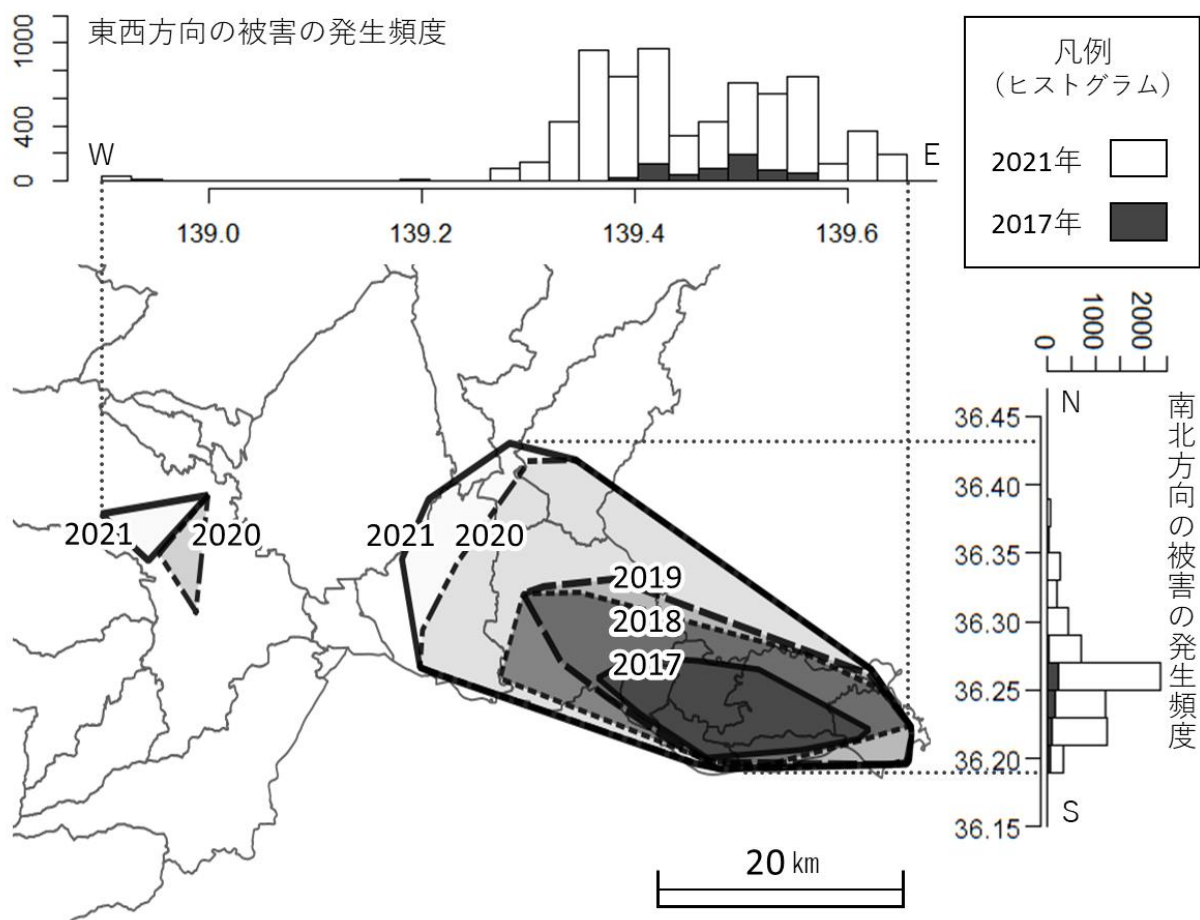


図2 被害の範囲及び発生頻度